

令和6年度第2回日の出町立中学校部活動の地域連携及び地域移行に関する協議会
論点整理

感想・意見・懸念事項等	集約・まとめ
○ やりたい生徒と教員がマッチする時はいいが、そうでない場合、求めるものが違ってきているので難しい。オーバーワークになってきている。	◆支援者となる指導者の確保
○ 生徒の自主性が大事。部活のいいところは「自主的・自発的」という点を前面に押し出せる部分だと思う。クラブチームはまず結果を求める。こういう結果を目指すならこういう人間性を持たないと、という教え方になる。部活はその逆ができる。人間性を育てる中で結果がついてくる。指導者はいた方がいいが自主性を育てるというのが一番の意義と思う。	◆地域連携・移行の方向性
○ 海外では季節ごとにスポーツを行っている。この季節はこのスポーツを行う、といったような行う競技を一つに決めない部活ができないかなど自由な活動も考えられる。他地域ではスポーツ部という季節ごとに行う競技を変える部活があるが、中体連は2重登録できないので活動自体はできるが大会参加ができない。	◆生徒のニーズに応じた部活動運営
○ スポーツ協会の状況として、バレー・野球が高齢化やなり手がいないため町内で成り立っていない。現状では協会が中学校の部活に携わるのは厳しい状況であるが、協力していかないと考えている。	◆地域人材の活用に必要な体制整備
○ 何かルール作りをして、やりながらやっていかないとと思っている。武蔵境のキャンパスにも高校まで部活やっていたという人いる。教授、学校と相談しながらルールを検討していけたらと思う。4年生が教員免許取得することから指導に参加させてもらうのはありがたい。	◆地域人材の活用に必要な体制整備
○ ボランティアでの運営には限界がある。	◆地域人材の活用に必要な体制整備
○ 生徒が自主的、自発的にもできるが、先生たちがいてくれないと練習試合すらできないのが現状。そのため、子供たちが全部、自主的にやるのは難しい。 全て自主的ではなく、導いたり、手助けをしたりする大人は絶対に必要。	◆支援者となる指導者の確保 ◆生徒のニーズに応じた部活動運営 ◆地域人材の活用に必要な体制整備
○ 子供がどうやって学んで大人になっていくか、そこにどう大人が関わっていくかが大切だと思う。子供は色々な考え方があり、それらを整理していければよいと思う。	◆地域連携・移行の方向性
○ 名前は地域移行となっているが、こうあるべき、こうしようと決めないでも良い。子供たちのやりやすいようにしていきたい。	◆地域連携・移行の方向性

○ 子供の成長と学びをどう考えるかで、いろいろな世代の人が関わっている。部活ではなく居場所。形ありきではなくスタートできるといい。	◆地域連携・移行の方向性
○ 子供の良いように部活の方向性を決めていけたらと思う。ゆるい部活と受け皿になるようなところがあると良い。	◆地域連携・移行の方向性
○ 町づくりにつながる部活を作っていけたらと思う。	◆地域連携・移行の方向性
○ 教員の負担を軽減させて、子供たちのやりたいことを考えてあげたい。	◆地域連携・移行の方向性

感想・意見・要望等の集約と論点整理

論点 1 日の出町立中学校部活動の地域連携及び地域移行の理念・方針

【考え方・捉え方】

- 様々な世代の大人が関わり、生徒の成長・学びの場としての居場所づくりを進める。
- スポーツ・文化芸術活動に参加できる環境整備を通して、生徒の成長を支える。
- スポーツ・文化芸術活動における部活動の形として、生徒のニーズに応じた柔軟な運営を行う必要がある。
- 部活動の地域連携・移行の取組を通して、まちづくりにつなげていく。（日の出町教育ビジョン 2023 の具現化）

論点 2 地域人材の活用に必要な体制整備

【考え方・捉え方】

- スポーツ・文化活動における生徒の学びには、生徒を導いたり支援したりする大人が必要である。
- ボランティアでの運営には限界がある。
- 亜細亜大学の学生には教員免許の取得を目指す学生もいる。学生も学校で生徒に教えることができる機会になる。
- 部活動における亜細亜大学の学生の派遣を試行する。
- 指導者派遣における体制整備が必要である。